2019　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070801073		
法人名	医療法人　翌檜会		
事業所名	グループホーム「ばらいろ」	ユニット名	1ユニット
所在地	福岡市東区名子1－1－5		
自己評価作成日	2019年8月15日	評価結果市町村受理日	2019年10月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人　福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4－3－7　フローラ薬院2F		
訪問調査日	2019年8月30日	評価確定日	2019年9月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

月に一回、近くの保育園児の慰問がありゲームや様々なイベントを行って過ごしています。いつも笑顔と笑いが絶えない「ばらいろ」です。周りには田んぼがあり夏はかえるの鳴き声が聞こえるのどかな場所にあります。

2019年、「医療法人翌檜会」は開設20周年を迎える。管理者は法人開設年から勤務しており、介護職員の育成や法人内外の多職種連携を続けてこられた。職員のチームワークも良く、入居者と家族の要望を引き出しながら、「焼き肉が食べたい」「花が見たい」等の願いを叶えている。入居者との散歩の中で、近所の方から庭の花の名前を教えて頂いたり、小川を眺めながら「春の小川」を一緒に唄い、シロツメクサで首飾りを作られている。公園でブランコに乗ることもでき、童心に戻り、素敵な笑顔で会話を楽しまれている。ホームの中でも、入居者が電話に出て下さったり、玄関の来訪者を職員に教えて下さる方もおられ、職員は入居者の方々の「未知なる能力」を知る中で、日々感動体験をされている。今後も更に、隣接する施設の1階に「駄菓子屋コーナー」を作り、入居者の役割を増やすと共に、町内の納涼祭が17年ぶりに再会予定であり、地域の一員として貢献ができればと考えている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実施出来ている。	「・家庭的な雰囲気作り　・人としての尊厳を守る　・残された力でくらしの喜びと自信を」という理念であり、職員全員で入居者個々の残存能力を見極め、洗濯物たたみ、居室の整理整頓等の役割を担って頂いている。地域交流も行い、保育園児等との交流を楽しまれている。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事には出来る限り参加している。	地域の餅つき会に入居者と行かれており、空き缶拾いや草むしりに職員が参加している。保育園児の訪問も毎月あり、入居者の似顔絵を書いて下さっている。法人の秋祭りには保育園児や和太鼓（久山町）等も来て下さり、ﾌﾞﾗｽﾊﾞﾝﾄﾞやﾋﾟｱﾉ演奏等の慰問もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かしていけるようにしている。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かしていけるよう努力している。	１１時頃から会議を開始し、昼食を一緒にして頂いている。季節行事（そうめん流しや焼きｻﾝﾏ等）も楽しんで頂き、入居者と交流して頂いている。会議では入退居情報、ﾋﾔﾘﾊｯﾄ、行事報告（保育園児との交流やﾄﾞﾗｲﾌﾞ等）も行われ、地域情報も頂いている。	
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	取り組んでいる。	運営推進会議では地域包括の方から特殊詐欺等の情報を頂き、関連するﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄも配布して下さっている。疑問点等は市の本庁に相談し、勤務体制等のｱﾄﾞﾊﾞｲｽを頂いている。管理者が別のﾎｰﾑの会議に参加し、他のｴﾘｱの地域包括の方と情報交換している。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に取り組んでいる。	法人全体で身体拘束廃止委員会を毎月行い、年2回以上の勉強会も継続している。日中、玄関は開錠しており、見守り等を強化すると共に、玄関にセンサー等を設置している。行動障害が見られる時は原因を把握し、ご本人が少しでも安心できる方法を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	常に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	（6）	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援している。	職員は権利擁護の研修（内部・外部）を受けている。契約書に制度の記載があり、管理者が入居時に説明している。制度を利用する方もおられ、後見人との情報交換を続けている。家族状況に応じて心配事の相談に応じると共に、家族同士で話し合う機会も作って頂いている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	図っている。		
10	（7）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	実施出来ている。	面会時や電話、家族会（年１回）等で家族の要望を伺っている。管理者等が暮らしぶりや健康状態を報告し、心配事などを伺っている。職員の「笑顔で挨拶」も好評で、新聞も喜ばれている。入居者会議も毎月行われ、入浴や散歩の順番、座席等を話し合いで決めている。	
11	（8）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングで意見を聞く場を設けている。	入居の受け入れや次年度の目標等、管理者の提案内容に基づき、職員個々の意見も確認している。会議で採用した意見(ｹｱ内容）は1ヶ月実施し、更なる検討を続けている。職員の意見やｱｲﾃﾞｱは多く､ﾁｰﾑﾜｰｸも良好である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13	（9）	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	実施出来ている。	職員の紹介で採用になる方もおられる。事務長と管理者が面接しており、初任者研修修了者で、優しさや笑顔、目の生き生き度を大切にされている。勤務希望や研修希望、休みの希望等も伺い、職員個々の能力（家事全般ができる。ﾚｸが上手。料理上手等）を発揮して頂いている。	
14	（10）	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	取り組んでいる。	「利用者を尊重し、個々に適したｻｰﾋﾞｽを提供する・・」と言う事を大切に、管理者は日々、職員個々のご利用者への関わりやｹｱの根拠を確認している。職員も私語を慎み、ご利用者も一緒に会話をすると共に、ご利用者の役割や楽しみを増やすように努めている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実施できている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実施できている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築けている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築けている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている。	ｾﾝﾀｰ方式を活用し、生活歴を把握しており、家族と馴染みの美容室に行かれる方もおられる。踊りの元師匠とお仲間が訪問し、居室で過ごされたり、ご本人の愛犬をﾎｰﾑに連れてきて下さる家族もおられる。ご本人の要望を伺い、家族に伝達するｻﾎﾟｰﾄもされている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めている。	入居前から、管理者とｹｱﾏﾈが主にｱｾｽﾒﾝﾄしており、家族からも教えて頂いている。担当職員も生活歴や趣味、要望などをｾﾝﾀｰ方式に記入している。「焼き肉が食べたい」「散歩に行きたい」「花が見たい」等の要望も叶えており、笑顔の写真が増えている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作っている。	ﾐｰﾃｨﾝｸﾞでｹｱの振り返りをしている。主治医や看護師、PT等から医療面のｱﾄﾞﾊﾞｲｽを頂き、食事や排泄、入浴等の支援内容を盛り込むと共に、「洗濯物たたみ」「散歩」「ﾄﾞﾗｲﾌﾞ」等の役割や楽しみも記入している。実施状況もﾁｪｯｸし、日々の記録などと共に家族に見て頂いている。	今後もアセスメント用紙に、ADLとIADL等の「能力」「目標」を追記すると共に、1表の「生活に対する意向」を増やしていく予定である。2表の表現もわかりやすく記入されており、入居者への更なる説明に活かしていく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。	協力医療機関(月2回)、皮膚科(必要時)、歯科医師の往診があり、系列のPT・OT(月1回)や管理栄養士からのｱﾄﾞﾊﾞｲｽも頂いている。母体ｸﾘﾆｯｸの受診時は管理者や看護師が同行し、他科受診は家族に依頼している。今後も家族の実状を把握し、受診介助の検討を行う予定である。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだまではあるがさらにチームで支援に取り組んでいきたい。	重度化、終末期の意向確認を行い、同意書を頂いている。「最期までﾎｰﾑで」と希望される方ばかりで、最期まで誠心誠意のｹｱが行われている。職員の観察力も深く、早期対応に繋げており、24時間体制で医療連携ができている。緊急時は管理者や看護師が駆け付ける体制があり、老健の看護師との連携もできている。	

自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	まだまだ勉強していっている。		
37	（16）	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	築いていけるよう努めている。	老健とﾎｰﾑ含めて夜勤者は6名で、老健等と合同で訓練しており、消防署の訪問時（年1回）にｱﾄﾞﾊﾞｲｽを頂いている。夜勤者は首から防犯ｺｰﾙを下げ、警備会社に通報でき、玄関等に防犯ｶﾒﾗも設置している。水と常備食、非常持ち出しﾘｭｯｸ等を準備している。	28年度に消防署と一緒に訓練が行われた。今後は近隣の別法人の事業所と合同で訓練を行うと共に、消防署も一緒に訓練を行う方法を検討予定である。

Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38	（17）	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	行っている。	事務所に「丁寧な言葉遣いと丁寧な態度」と掲示しており、職員には浸透している。優しい職員ばかりで、言葉遣いと羞恥心に配慮されている。職員は申し送り時の声の大きさ等に注意し、ｲﾆｼｬﾙで申し送りを行い、法人研修で個人情報の管理の指導を徹底している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。		
42	（18）	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	できる事はしていただくようにしている。	併設施設で調理し、月6日（主に夕食）はﾎｰﾑで手作りしている。畑で収穫した大葉や豆、職員手作りの野菜の差し入れもあり、季節料理を追加する事もあり、彩りにも配慮している。入居者も筍やﾌｷの皮むきや下膳、食器拭き等をして下さり、誕生日にはｹｰｷを手作りしている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	行っている。	排泄が自立し、下着を使用する方もおられる。排泄記録も丁寧に行い、立位や座位等の能力を評価し、自立支援の視点も大切に個別支援が行われている。おむつを使用する方もおられるが、ﾄｲﾚに座ることで排便に繋がる方もおられ、2人介助が行われている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	行っている。	入浴好きの方が多い。湯温の希望を伺い、愛用のｼｬﾝﾌﾟｰを使用する方もおられる。職員との会話を楽しまれ、歌も聞かれ、柚子湯も楽しまれている。安全面に配慮し、浴槽には回転用の座椅子を設置しており、できる範囲は洗って頂いている。老健の人工温泉を楽しまれる時もある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行っている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行っている。	ﾎｰﾑの中だけの生活にならないように、庭の大葉等を採りに行かれたり、老健で行われる英語教室等に参加される方もおられる。気候や体調に応じて散歩などを楽しまれ、、近所の方から庭の花の名前を教えて頂いている。久山のかかし祭り見学、宮若市の門松見学、博多港、山賊屋や焼き肉屋での外食なども楽しまれている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	努めている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行っている。	玄関を入ると広い廊下があり、保育園児の似顔絵や行事の写真、園児と一緒に作られた作品が貼られている。廊下のｿﾌｧｰに座って会話を楽しまれたり、ｸﾞｯﾋﾟｰやめだかに餌をあげる方もおられる。ﾘﾋﾞﾝｸﾞも明るく、庭を眺める事ができる。季節の野菜をﾃｰﾌﾞﾙに並べ、会話のきっかけにしたり、ﾚｸやｹﾞｰﾑを楽しまれている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	行っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	行っている。	入居者と担当職員と一緒に居室のﾚｲｱｳﾄの検討をされており、ご本人が整理整頓される方もおられる。家族の写真や絵画等が飾られ、ﾀﾝｽや籐の椅子、仏壇、ﾃﾚﾋﾞ、冷蔵庫等もあり、家族が冷蔵庫にｼﾞｭｰｽ等を補充されている。入居時に好みの壁紙を選んで頂ける場合もある。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	行っている。		

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：25,26,27）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：20,40）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：40）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：38,39）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：32,33）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：30）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,21）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,22）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
		○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない